

地域の健康づくり活動支援のため、出張講座を行いました

令和6年
7月10日
(水)

「ちくしるキャンパス～筑紫野を知る学びの場」として、筑紫野市生涯学習センターにて、管理栄養士と理学療法士が出張講座を行いました。

テーマ 3年後の自分のために～今からできる体作り～
講師：加祥 和恵（管理栄養士）



テーマ 健康な体づくりのために
講師：玉置 友春（理学療法士）



「3年後の自分のために～今からできる体作り～」では、参加者が普段の食事内容を振り返り、主食・主菜・副菜のバランスチェックなどを行いました。また、「健康な体づくりのために」では、筋力チェックなど日常生活で行える簡単な運動に取り組みました。どちらも参加型の講座で、3年後の自分についてグループで話し合い、和んだ雰囲気の中でプログラムは進みました。

令和6年
8月26日
(月)

筑紫野市の南高年クラブとの共催で、筑紫南コミュニティセンターにて、がん専門相談員である看護師長と緩和ケア認定看護師が出張講座を行いました。

テーマ 人生会議、始めてみませんか？
講師：吉田 久美（がん専門相談員 看護師長）
江島 やよい（緩和ケア認定看護師）



「人生会議」とは、アドバンス・ケア・プランニングとも言われ、もしもの時のために、あなたが大切にしていることや望み、どのような医療ケアを望んでいるかについて、自らで考えたり、信頼する人たちと話し合ったりすることです。講演後は、参加者でグループを作り「人生 100 年これからゲーム」を行いました。「人生会議」と聞くと、難しいテーマのように感じますが、人生の最期をどのように過ごしたいか、自分が大切にしたいことをカードゲーム形式で楽しみながら考えることができ、賑やかな雰囲気での講座となりました。



福岡大学筑紫病院ニュース

ちくし



福岡大学筑紫病院の理念
あたたかい医療

2024.秋
vol.71

「基本理念」

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。その基本は「人間性に立脚した医療」、心の繋がりを大切に、患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

「基本方針」

1. 安全、安心な思いやりのある医療の実践
2. 大学病院として、高度先進医療の提供
3. 地域医療支援病院・地域がん診療病院として、情報発信とともに地域医療への貢献
4. 開かれた質の高い多職種協働によるチーム医療の実践
5. 患者の尊厳を尊重し、倫理観を備えた優しい心を持った医療人の育成

内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科

内分泌・糖尿病内科 教授・診療部長 小林 邦久



内分泌・糖尿病内科は、糖尿病および内分泌疾患を専門にしていますが、高血圧・脂質異常症・肥満・メタボリックシンドローム・痛風（高尿酸血症）・骨粗鬆症などの代謝疾患も含め、総合的に診断・治療を行っています。小林邦久（教授）、阿部一朗（准教授）、工藤忠睦（助教）、越智健太郎（助教・臨床検査部）、山下 陽（助手）、東 明友子（助手）、久保啓太（助手）に加え、非常勤医師の竹下佳織、吉田亮子で外来・入院患者の診療にあたっています。当科は、日本糖尿病学会・日本内分泌学会・日本老年医学会の認定教育施設であり、日本糖尿病学会専門医・指導医・学術評議員、日本内分泌学会専門医・指導医・学術評議員が複数在籍し、その他、関連する日本老年病学会専門医・指導医、日本臨床内分泌病理学会学術評議員、日本間脳下垂体腫瘍学会学術評議員も在籍し、多岐に及ぶ診療を行っています。

糖尿病については、糖尿病専門医・指導医および CDEJ・CDEL（日本・福岡糖尿病療養指導士）の資格を持った看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士などスタッフが協力しあって、入院・外来において血糖管理のみならず糖尿病合併症の検査・診断・治療や個人栄養相談（糖尿病・腎不全・高血圧・肥満・脂質異常症など）・糖尿病教室・インスリン導入・持続皮下インスリン注入療法（インスリンポンプ）・血糖自己測定指導、さらには計画妊娠指導や糖尿病透析予防指導・フットケアまでを効率よく実施できる体制ができています。病棟では毎週木曜日午後に当科のみならず他科入院中の患者さんも含めて検討するカンファレンス・抄読会の後、病棟を回診しています。

診療日のご案内

循環器内科	腎臓内科	内分泌糖尿病内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	呼吸器・乳腺外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	脳神経内科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんご科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【受付時間】

〈平日〉8:40～11:00

※1 小児科の専門外来は要予約

【休診日】

土曜日・日曜日・祝日

年末・年始（12月29日～1月3日）お盆（8月15日）

【面会時間】

〈平日・土曜日〉13:00～20:00 〈日曜日・祝日〉11:00～20:00

※面会の状況については、当院ホームページをご確認ください。

交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合

西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分

JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合

九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分

県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。

※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。

地域医療支援病院・地域がん診療病院
福岡大学筑紫病院
Fukuoka University Chikushi Hospital

〒818-8502 福岡県筑紫野市俗明院一丁目1番1号
Tel. 092-921-1011(代) Fax. 092-928-3890
<https://www.chikushi.fukuoka-u.ac.jp>



回診後は、医師・看護師による入院患者の診療・看護における問題点の共有や生活サポートの方法などについて、病棟カンファレンスを行っています。さらに毎週火・水・木・金曜日には学生および糖尿病に興味のある研修医・助手・助教を対象にミニレクチャーを実施しています。また、近隣の医療従事者も出席可能な勉強会・講演会なども随時開催しています。近隣の先生方からご紹介を多くいただいております。専門施設の目安となる 1 型糖尿病患者数は 200 名近くになっています。持続皮下グルコース測定システム（CGM）も、入院・外来で多くの患者さんが使用しています。血糖変動の激しい患者さんにつけていただくことで、精密な病態把握のみならず経口血糖降下薬およびインスリンの選択や量の調整が適切にできるようになっています。「平成 28 年国民健康・栄養調査の概要」によりますと糖尿病患者数は約一千万人に達したと考えられています。糖尿病は高度視力障害の主原因であり、壊疽による足切断や血液透析の原因の第 1 位とされています。これらの糖尿病合併症を予防するためには良好な血糖の達成とその維持が基本であり、より早期からの食事療法・運動療法の徹底、インスリンを含めた積極的な薬物療法の導入などが求められるようになってきています。当科ではこれらの要請に答えていきます。また、地域医療支援病院としての取り組みとしては、小林邦久が以前より研究してきた患者さんの通院意欲維持・脱落防止やかかりつけ医のガイドライン診療支援および患者－かかりつけ医－専門医の連携強化などを統合的に行う医療支援サービスを地域の先生方のご指導を仰ぎながら、少しずつ実践しています。お仕事や家事などで長期の入院ができない方に対しては 3 泊 4 日（水曜日入院土曜日退院）の短期糖尿病教育および合併症評価入院も受け付けています。外来ではなかなか難しい 1 日血糖変動（CGM を含む）や細小血管症および大血管症のチェック、さらにはインスリン分泌能評価などをま

とめて実施して結果を紹介元の先生に送付しています。患者さん向けの取り組みとしては、毎週水・木・金曜日の午後 2 時から医師・看護師・栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士による糖尿病教室を開催しています。糖尿病について、その基本知識・治療法・生活における注意など幅広く知識をつけていただいています。

内分泌疾患については、日本内分泌学会専門医・指導医を中心に甲状腺・副甲状腺・下垂体・副腎・性腺など、内分泌疾患全般を診療しています。甲状腺については、機能異常疾患のみならず、腫瘍に対する穿刺吸引細胞診も外来で施行しています。また、副甲状腺・下垂体・副腎疾患については、基本的に入院の上で、負荷試験や画像検査などの結果を総合的に判断し、確定診断をつけ、治療に結びつけています。糖尿病と同様、毎週木曜日午後に当科のみならず他科入院中の患者さんも含めて検討するカンファレンスを行い、病棟を回診し、医師・看護師による入院患者の診療・看護における問題点の共有のため病棟カンファレンスも行っています。また、毎週木曜日には学生・研修医・助手・助教を対象にミニレクチャーを実施しています。内分泌疾患には緊急性の高い病態（副腎クリーゼ、甲状腺クリーゼ、褐色細胞腫クリーゼなど）もあり、迅速・適切な診断・加療を要しますが、当科ではそれらの状態の患者さんにも対応しています。下垂体機能低下症の患者さんへのホルモン補充療法についても各々の患者さんで適切に導入を行っており、成長ホルモン補充、HCG 補充などの患者数も年々増加しています。さらに、内分泌腫瘍の手術後の二次療法（下垂体腫瘍など）や、内分泌癌（副甲状腺癌など）に対する薬物療法も行っています。また、骨粗鬆症（特に原発性副甲状腺機能亢進症などの続発性）などの代謝疾患に関しても診断・治療を行っています。内分泌疾患は、診断が難しいことも

多くありますが、紹介元の病院などと連携し、正確な診断を行ってそれに応じた治療に尽力しています。当科は入院患者総数に占める内分泌疾患の患者数（特に副腎、下垂体、副甲状腺など）が非常に多いことも特徴です。最近では、内分泌疾患に関して、今までと異なる機序で起こる続発性副腎皮質機能低下症の疾患概念とその詳細、内分泌疾患の一つである褐色細胞腫及びパラガングリオーマにおける高血糖のメカニズムの解明などを世界に先駆けて、国際的学術誌に報告しました。日本国内のみならず世界中の患者さんの適切な

診断・治療にも貢献しています（Takeshita K, et al. Medicine. 2022; 101: e30597. Abe I, et al. Front Endocrinol. 2020; 11: 593780.）。

今後も、筑紫地区の糖尿病・内分泌疾患の診療に貢献できるよう尽力していく所存です。また、大学の使命である研究や教育にもさらに力を入れていきたいと考えています。今後も筑紫地区をはじめ、多くの先生方の変わらぬご指導およびご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（文責：医局長 阿部 一朗）



内分泌・糖尿病内科スタッフ

▶ 診療担当者

	月	火	水	木	金
初 診	小林 久保	山下 久保	久保 小林 阿部 越智	吉田	(院内紹介のみ)
再 診	小林 工藤	工藤 山下 阿部 ^{1,3,5} (午後)	小林 (午前) 阿部 越智	工藤 (午前) 吉田 (午前)	小林 阿部 山下

※氏名右肩の数字は第○週の意